

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



特選

令和八年三月度 入賞句一覧 投句数 五百七十四句

大西 誠一 選

立春と大きく考の備忘録

東京都江戸川区 羽住 博之

考（ちち）とは亡くなった父親のことである。若い時は父のことを考えなかつた。でももうすぐ傘寿をむかえる歳になり、今までほつたらかしにしていた父の遺品から、備忘録を取り出しながめてみた。この句の作者のように、教わることが何点か見つかった。ありがたいことである。

降るもよしもうこれつきりなごり雪

大垣市 水谷 義雄

若い時は、スキーに行くとか、雪が降ってもあまり気にならずそれなりの楽しみがあつた。年齢がゆくと、車の運転とか除雪とか、雪がうつとうしくなつてきた。この句の中七の「もうこれつきり」という措辞が大変すばらしい。これから歳をとつても、雪をいやがらない努力をしたい。

俳諧に手書の文化春炬燵

岡山県岡山市 沼野大統領

小生もパソコンはあまり上手でなく、携帯電話のやりとりぐらいでお茶を濁している。俳句は学生時代に十年あまりと、六十歳から二十年。これからもこの句のように流石手書きの文化と胸を張つて言えるような俳句を作つてゆきたい。

秀逸

行く度に母の愚痴聞く炬燵猫

大阪府大阪市 岩田 乃理子

泥大根抱きて翁の仁王立ち

福井県敦賀市 山田 美千代

氷上のりくりゆうペアに吾も涙

岐阜市 船渡 惠

東雲の布団恋しやあと五分

大垣市 川出 久美子

老幹の一縷あらはに梅咲けり

大垣市 小林 研

八十路には八十路の歩み青き踏む

不破郡垂井町 竹嶋 富美子

廃屋の日ごと紅増すしだれ梅

揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

腹叩きまた着膨れのせいにする

東京都足立区 山崎 董久

老妻が風呂で舟漕ぐ春の宵

大阪府東大阪市 森 佳月

扁額の座敷なまめく雛飾り

大垣市 柏瀬 澄子

入選

跡継ぐ子牛舎の鬼もやらひをり

和歌山県日高郡

水野 あき

たわわなる願掛け絵馬や梅祭

大垣市

三輪 実

妣のした如く子にする針供養

大垣市

奥田 和子

初春や舞妓ことばも麗しく

大垣市

平野 順一

弧を描く兄の返球あたたかし

養老郡養老町

田中 紫香

指揮棒のひと振り春の雷を呼ぶ

東京都新宿区

花澤 ちいこ

咳三回視線感じる待合所

大垣市

大橋 浩美

春耕の一打に大地生きかへる

大垣市

村瀬 佐智子

薄氷や量子もつれのほどけゆく

東京都新宿区

高谷 行高

夜叉姫を祀る御堂や桜咲く

大垣市

岡田 あや子

退院のほほえむ妻に春の雷

岐阜市

寺島 瞭太

なかんづく初春の詩魂信州路

愛知県豊田市

城山 悠水

こぼれたる星の如くに犬ふぐり

大垣市

森 茂寿

春の宵昭和演歌のラジオかな

瑞穂市

谷 牛歩

詫び状の切手を舐むる余寒かな

本巣郡北方町

谷 弘行

選者吟

亀鳴くや根尾断層に住む我等

誠

一



一般の部